

審査の結果の要旨

氏名 上地 賢

本研究は高血圧等の生活習慣病の原因と考えられる食塩の過剰摂取について日本人成人集団での現状を明らかにするため、47都道府県に居住する福祉施設職員を対象として尿検体と質問票を用いて調査を行ったものであり、下記の結果を得ている。

1. システマティックレビューの手法に則り、日本人成人集団の24時間尿中Na排泄量を報告した論文を収集して1953年から2014年までの同排泄量の潜在的な経時推移を明らかにした。この期間の平均Na排泄量は213.7mmol/日であり、1950年代から現在まで186mmol/日のNa排泄量の有意な減少が示唆された。蓄尿の完遂を考慮した場合、1978年から2014年までの有意な減少が明らかではなかった。
2. 福祉施設職員を対象とした日本人成人集団の調査データを用い、24時間尿中Na排泄量を推定するために複数の随時尿検体を使用する方法を開発した。3回の随時尿を用い、平均Na濃度/平均クレアチニン濃度に推定24時間尿中クレアチニン排泄量を乗じた場合、過去に報告された推定法とも比較して最も正確に24時間尿中Na排泄量の集団平均値を推定した。しかし、個人の推定排泄量は推定誤差を多く含むものであった。
3. 福祉施設職員を対象に、随時尿を使用した24時間尿中Na排泄量の集団平均値の推定を47都道府県別に行った。食塩摂取量に換算した場合、集団平均食塩摂取量は12.2g/日と推定され、東北・日本海側で高値、南西部で低値となる傾向にあった。解析対象者において、WHOの推奨値(5g/日未満)を満たしているものは19人(0.9%)、日本人の食事摂取基準2015目標量(男性:8g/日、女性:7g/日)を満たしているものは230人(11.1%)であり、対象者集団のおよそ9割で食塩摂取量が過剰であることが示唆された。
4. 減塩に関して、52%の対象者が“無関心”であると回答した。“関心あり”とした者は実際に減塩に向けた食行動を取る頻度が高かったが、推定Na排泄量は有意差を認めなかった(男性:“無関心”207mmol/日 v.s. “関心あり”205mmol/日、女性:“無関心”125mmol/日 v.s. “関心あり”123mmol/日,  $p>0.05$ )。また好まれる減塩行動が、対象者の背景や日常的に行う食行動により異なることから、生活の中で実行可能な減塩行動とそれを行う際の詳細な知識の普及が減塩指導に必要であることが示唆された。

以上、本論文は日本人成人集団の食塩摂取の状態について、過去から現在まで過剰の状態であることを明らかにし、更なる減塩対策の必要性を示唆した。本研究は日本人成人集団の食塩摂取量をバイオマーカーによる評価にて記述しており、効果的な減塩対策の立案のため基礎となる根拠を提示している。そのため、学位の授与に値すると考えられる。